

明治四十二年十月三日發兌

水彩肖像畫法

〔一〕

夢 鷗 生

水彩繪具で肖像を畫くことは形を正しく、調子を微妙に、酷似させるといふ上から頗る六かしいものであるが、今から譯出する事項を知つて居れば、初歩のものにとりては幾分利する所があるであらうと思ふ。先、材料から初めるとしやう。

紙、

肖像を描くに用ひる紙は厚地の品が宜しい、そして適度の粗面であるが良い、薄過ぎると改竄するときの護謨の使用に堪へない、又紙面が滑かであると彩料の乗りが旨く行かぬ、粗面であり過ぎると肉の面を美しく示すに困難である。

畫家の多くが使用する紙は、ワットマンのエキストラ、ダブル、エレフハント號であつて、四十時に二十六時の大きさである。これは彩料も良く受けるし、肖像の面を示すだけには充分なる滑かさも有て居る、紙はこれで良くて、之れを使用するには其の表裏を確かめなければならぬ。それには、紙を明るい方へ擴げて見て、紙に漉き込んである製造所の商標を見れば判かる、即ち左から右へ文字が讀めればこれが表で、逆文字に見えたときは其は裏面なのである。紙を裁たぬ内はこれでも分かるが、切つてから後は紙面の凸凹の具合を見て、表裏を見分けるより外に仕方がない、それだから裁つた時直に表面の方の片隅へ鉛筆で何か目

標をつけて置くが宜しい。

次には紙を貼る事である、普通は板に水貼をするのであるが、人によりては膠で板に貼つたり、又は布片と釘とで枠張をすることもある、水貼板と枠とでは枠の方が價が廉であるから、一枚毎に枠を新しくして枠張する人もある。

水貼をするにも、充分紙に水を含ませるがよい、それには海綿に水を含ませたので紙を軽く摩擦して、後に紙隅を片方へ曲けて見て、その隅が元へ弾ね返へる様では未だ充分に濕ふたとはいへない。それかといふて、餘り濕ふい過ぎて紙が裂ける様になつてもまづい。

彩料、

肖像を畫く彩料を二種に區別する、一は筋肉を描く爲に必要なもので、一は其他衣服等を畫くに必要なものである。筋肉を畫くに入用の彩料は次の如し、

チヤイニス・ホワイト(ジククホワイト)、インヂアン・エルロー、ヴェネチアン、又はライト・レッド、ヴェルミリオン、ピンク・マダー、又はローズ・マダー、インヂアン・レッド、ブラウン・マダー、コバルト・ブリュー、バーント・シナ、ヴァンダイク・ブラオン、

衣服其他背景等を畫かくに要する彩料は、既に擧げたものの外に左の數色が必要である。

ガンボジ、エルロー・オークル、セピヤ、レーキ、カーマイン、フレンチ・オルトラマリン、スマルト、インヂゴ、プルツシアン・ブリュー、

* * * * *

* * * * *